

第4回（令和2年3月）定例市議会における陳情審査結果の通知受理について

第4回（令和2年3月）定例市議会における教育委員会関係の陳情審査結果について、別紙のとおり報告します。

令和2年4月8日提出

西宮市教育委員会  
教育長 重松 司郎



西議発第134号  
令和2年3月23日  
(2020年)

西宮市教育委員会  
教育長 重松 司郎 様

西宮市議会議長 大石 伸雄

陳情審査結果等の送付について

第4回定例会において審査いたしました陳情文書表及び審査結果を別紙のとおり送付いたします。

令和2年3月23日

市議会議員 各位

市議会議長 大石 伸雄

陳情審査結果について

第4回(令和2年3月)定例会における委員会の陳情審査結果を次のとおり報告します。

陳情審査結果報告書

陳情 番号	件 名	委 員 会	結 果
5	西宮市内3つのジュニアラグビーチームへ小学校の校庭開放についての陳情	教育こども	結論を得ず

## 第4回（令和2年3月）定例会陳情一覧表

陳情 番号	件 名	陳 情 者	送付委員会
5	西宮市内3つのジュニアラグビーチームへ小学校の校庭開放についての陳情 西宮市今津水波町 梶月 一希 ほか1名		教育こども

陳情番号	陳情第5号	受理日	令和2年2月20日
件名	西宮市内3つのジュニアラグビーチームへ小学校の校庭開放についての陳情		
陳情者	住所	西宮市今津水波町 氏名(団体名) 泉月 一希 ほか1名	

(陳情趣旨)

現在、西宮市には、3つのジュニアラグビーチームがございます。この3つのジュニアラグビーチームは現在固定のグラウンドがなく、毎週末に色々なグラウンドを転々としている現状があります。現在、ラグビーキッズたちはもちろん親御さんのサポートはありますが、他校の生徒たちと仲良く遅く週ごとに変わる校区外のグラウンドに出向き練習しています。しかし、現在所属している子どもの保護者はもちろん、これからラグビーを始める子どもたちとその親御さんの心算と、決まったグラウンドがあると大きな安心感があり、始められるキッカケになります。また、現在のラグビーキッズとその親御さんにとっても安心していただけます。

私共がラグビーというスポーツを推奨する理由は、3つあります。

1つ目は、ラグビーというスポーツは、その特徴から海外では「人間教育」として注目されています。その理由としては、ラグビーのルールやマナーといったところにあります。ラグビーというスポーツは、「前」にパスや「前」に落とすというように基本的に「前」に何かを行うことが禁止されたスポーツです。しかし、その中でボールを「前」に運ばなければいけないという矛盾のスポーツでもあります。そのため、ボールを持った人が全て判断をしなければいけません。その判断が上手くチーム全体に伝わらなかった時に反則が起きてしまいます。その判断が上手く通るようにチーム全体で1人のボールを持っている人を支えます。そして、ボールを持った人はチーム全体に伝えるように発信します。「One for all, all for one」という言葉にも象徴されるようにラグビーは仲間への「信頼」と「思いやり」が無ければ、勝利には結びつきません。また、ボールを前に運ぶ上では必ず「痛み」が生じます。それは、身体的なコンタクトのこともあるかもしれませんが、精神的なものも含まれていると感じています。「痛み」と聞くと、とても悪く思われるかもしれませんが、ここでいう「痛み」とは、そうではありません。ここでいう「痛み」とは「成長」でもあります。子どもたちの成長過程には必ず、困難がつきものです。人間関係や環境順応といった、大人でさえも抱えてしまう問題を子どもは大人以上に抱え込んでしまいます。しかし、その困難を1人もしくは、仲間と一緒に乗り越える力を養うことがラグビーにはできると確信しています。ラグビーの中で「痛み」に揉まれ、その「痛み」を超えた先には必ず自己の成長がついてきます。ラグビーの中の「痛み」こそ、子どもを成長させてくれる重要な要素なのです。そして、その「痛み」を乗り越える力が、成長過程においての困難を乗り越える力につながります。ラグビーというスポーツは仲間への信頼と思いやり、困難を乗り越える力を育てるためにも子どもの教育には欠かせないものだとして私共は考えております。さらに、ラグビーは「人間性が出るスポーツ」とも言われています。先述のように、ラグビーはとても激しいスポーツで

す。そのため、試合はとても善悪がはっきりしています。その善悪の区別がつかなくなってしまおうと試合は成り立たなくなってしまいます。その善悪の判断に、普段の生活や言動がとも出てきます。例えば、帝京大学のラグビー部は成績不振で悩んだ頃に練習以前に普段の生活を見直しました。普段は見逃すようなゴミを捨てることや試合前の相手チームへの挨拶を全員で行うこと、荷物や靴などをズレがないようにしっかりと並べることなどといったことをしました。その結果、2009年から2017年で大学日本一を9連覇しました。昨年、その記録は止まってしまいました。その理由としては、他の大学もそのようなところに目を向けるようになったからです。文部科学省が提唱している子どもの発達段階の「学童期」の課題として、自己肯定感の育成、自他の尊重の意識や他者への思いやりなどの涵養といったものが挙げられております。この課題解決のツールとして「ラグビー」が適切であると考えられます。また、「学童期」はとても善悪というものに敏感に接しなければいけません。しかし、その教える材料として、使えるものがとても少なく感じております。その教える材料としても「ラグビー」が非常に適切であると考えられます。ラグビーには3大スピリットというのがあります。それは、「Discipline」「Respect」「Passion」です。この3つが「人間教育」「人格形成」「健やかな成長を育む」といったものに結びつきます。そのためラグビーとは、子どもをいち早く大人にさせ、逆に大人を童心に帰らせてくれます。だから、上記にも記した通り、海外ではラグビーが教育性の高いスポーツとして注目されているのです。

2つ目は、「兵庫県」という地域性に理由があります。兵庫県は小学校から高校までで、日本でも有数の競技人口が多い地域であります。また、関西大学Aリーグ所属であり、昨年日本ベスト8である関西学院大学もあります。さらに、昨年日本一に輝いた神戸製鋼コベルコスティーラーズというトップリーグのチームもあります。このように、兵庫という地域だけで見てもとてもラグビーが盛んであります。そして、日本の競技人口が多い地域の中で小学校から社会人までのチームがあるのは、東京と大阪、兵庫のたった3県です。「市」という面で見れば、小学校から大学までチームが充実しているのは西宮市だけであります。また、大学ラグビーで活躍している選手に兵庫県出身が多くいます。さらに、昨年のラグビーワールドカップの試合会場や、今年の7月に行われるラグビーの国際試合の会場としても兵庫のラグビースタジアムが選ばれています。このように地域性やラグビーというものをさらに全国に広めるためにも西宮市から発信していく必要があります。

3つ目は、話題性です。記憶にも新しいかと思われませんが、昨年、「ラグビーワールドカップ2019」が日本で行われました。この大会は、日本ラグビーだけではなくラグビーワールドカップの歴史さえも塗り替えた大会とも言われております。南アフリカの優勝で幕を閉じましたが、今までの大会であれば、絶対に無理だったことなのです。今までは、予選プールで1回でも負けたチームは優勝することは不可能でした。南アフリカは今大会3勝1敗でした。その中で優勝したのです。そして、日本代表、「ブレイブ・ブロッサムズ」がベスト8に進むという快挙です。前回大会の南アフリカ戦は奇跡ではなかったことを証明してくれました。しかし、注目しなければいけないことは、ティア2国というラグビー中堅国が決勝トーナメントに進んだことです。これは、絶対に無理だと言われたことです。しかし、そのジンクスを壊したのが、紛れもなく「日本」だったのです。以上のように日本ラグビーはその実力や技術の向上だけではなく、話題性でも国内だけではなく世界から注目を浴びています。その話題の波を逃さないためにも市内スポーツクラブ21への追加を是非お願いしたいと思っております。

以上の「教育性」「地域性」「話題性」という3つの観点からラグビーというスポーツを推奨します。現在、西宮の小学校では昼休みにラグビーをするのがとても流行っているようです。理由としては、ボール1つでなんでもできるからだそうです。また、様々な分野で近年活躍が期待されている日本だからこそ、ラグビーというスポーツにも力を入れるべきであると私共は感じています。本陳情が採択された場合、関西学院大学体育会ラグビー部ができる限りの協力をいたします。

今回の件により、西宮市のラグビーの普及に対する前向きな姿勢が全国に拡大していくことを願うばかりです。

(陳情事項)

つきましては、以下の事項について可能な限りで協力お願い致します。

1. 市内の3つのラグビークラブへの小学校の校庭開放を要請すること